

「古代オリンピック」

先日、新型コロナウイルスの影響^{えいきょう}をうけ、2020 年東京オリンピックの延期が発表されました(2021 年 7 月 23~8 月 8 日開催)。世界中が楽しみにしていたイベントなだけに、残念なニュースですが、これを機^きに、オリンピックの歴史について少し勉強してみましょう。歴史を知れば、オリンピックの見方も変わってくるかもしれませんよ?

オリンピックには、「古代オリンピック」と「近代オリンピック」の 2 つがあることを、知っていますか?今回は、「古代オリンピック」について詳しく見ていきましょう。

古代オリンピックの始まりは、紀元前 9 世紀ごろといわれています。全能の神ゼウスをはじめ、さまざまな神様を^{あが}めるための祭典として、古代ギリシャのオリンピア地方で行われていました。古代オリンピックで行われた最初の種目は 1 スタディオン(約 191m)のコースを走る「競走」でした。後に、これが陸上競技へと変わっていくことになります。紀元前 7 世紀ごろまでは、この競走 1 種目だけで行われていました。その後、種目の数を増やしより大きな祭典へと発展していきます。当時行われていた種目の一部を紹介します。

ディアロウス競走…2 スタディオンの距離を走る中距離競走。スピードに加え持久力も必要となる種目で、現在の 400m 走に相当する種目です。



レスリング…立ったままの姿勢から相手を持ち上げて投げる競技で、正しく美しく投げることが求められたようです。時間制限はなく、勝敗が決するまでに長時間を要する過酷^{かこく}な競技でした。

ボクシング…時間制限がなく、倒されても敗北を認めない限り終わりませんでした。さらに体重別の階級はなく、グローブの代わりに敵へのダメージを大きくするための革^{かわ}ひもを拳^{こぶし}に巻いて殴り合ったようです。



パンクラティオン…ギリシャ語で「パン」=「すべての」、「クラティオン」=「力強い」を意味します。素手ならどんな攻撃をしてもよいというルールで、関節技や首を絞めることも許され、どちらかが負けを認めない限りは勝負が決まらないという現在では考えられない競技でした。

これらの種目は、現在の陸上競技やレスリング、ボクシングなどの種目の原型となったと考えられています。古代オリンピックにはギリシャ全土から選手や観客が参加しました。当時のギリシャではいくつかのポリス(都市)が戦いを繰り広げていましたが、オリンピアの祭典には、戦争を中断してでも参加しなければいけなく、「聖なる休戦」と言われました。

その後、紀元前 1 世紀ごろにギリシャがローマ帝国に支配されたことで、ローマが支配する様々な地域から選手が参加するようになります。しかし、392 年にローマ皇帝がキリスト教を国の宗教と定めたことで、オリンピックの継続が困難となり、1169 年間続いたその長い歴史に幕^{まく}を下ろすことになります。

古代オリンピックが終わりを迎えてから 1500 年の時が流れた 1892 年。フランスのピエール・ド・クーベルタン男爵^{だんしやく}が、オリンピック復興の構想を打ち立てます。その構想は世界中の国々の賛同を得ることに成功し、1896 年、記念すべき「近代オリンピック」第 1 回大会がギリシャのアテネで開催されたのです。

近代オリンピックについては次回以降詳しく見ていきましょう!お楽しみに!

